

社会資本総合整備計画 事後評価シート

おうめ えきしゅうへんけい かんけいせい ち く りょうこう まち けいせい  
青梅駅周辺景観形成地区における良好な街なみの形成

とうきょうと おうめし  
東京都 青梅市

平成27年5月

社会資本総合整備計画（地域住宅支援） 事後評価書

平成27年5月

計画の名称	1 青梅駅周辺景観形成地区における良好な街なみの形成																															
計画の期間	平成22年度～平成26年度（5年間）					交付対象	青梅市																									
計画の目標	<p>青梅駅周辺景観形成地区は、古くからの商店街や街なみが存在している。周辺部にも寺社や仏閣、美術館などの文化的施設が点在しており、さらに大規模な永山公園や釜の淵緑地などのレクリエーション施設もある。また歴史を伝える青梅大祭やだるま市などのイベントも開催されている。</p> <p>しかし、交通手段や利用者のニーズの変化、郊外の大形店の立地により、商店街に空き店舗も発生して活力が低下する傾向にある。</p> <p>このような中、地元の景観まちづくり市民団体と連携を図りながら、青梅駅周辺景観形成地区の様々な時代の歴史的建築物との調和と周辺の山なみへの眺めの保全を図り、「里山と川に包まれ 歴史が息づき 文化の薫る魅力あるまち」の実現に向けて、良好な街なみ景観を形成していく。</p>																															
計画の成果目標（定量的指標）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・景観形成地区内における周囲の景観を活かした道路美装化の面積</li> <li>・景観形成地区内における歴史的建築物等の維持向上に資する修理・修景棟数</li> </ul>																															
定量的指標の定義及び算定式	<table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th rowspan="3"></th> <th colspan="3">定量的指標の現況値及び目標値</th> <th rowspan="3">備考</th> </tr> <tr> <th>当初現況値</th> <th>中間目標値</th> <th>最終目標値</th> </tr> <tr> <th>(H22当初)</th> <th>(H24末)</th> <th>(H26末)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>① 景観形成地区内の道路のうち、周囲の景観を活かした美装化を実施する面積</td> <td>234㎡</td> <td>357.3㎡</td> <td>1,358.4㎡</td> <td></td> </tr> <tr> <td>② 景観形成地区内の建築物等のうち、歴史的建築物等の維持向上に資する修理・修景を実施する棟数</td> <td>3棟</td> <td>3棟</td> <td>6棟</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>												定量的指標の現況値及び目標値			備考	当初現況値	中間目標値	最終目標値	(H22当初)	(H24末)	(H26末)	① 景観形成地区内の道路のうち、周囲の景観を活かした美装化を実施する面積	234㎡	357.3㎡	1,358.4㎡		② 景観形成地区内の建築物等のうち、歴史的建築物等の維持向上に資する修理・修景を実施する棟数	3棟	3棟	6棟	
	定量的指標の現況値及び目標値			備考																												
	当初現況値	中間目標値	最終目標値																													
	(H22当初)	(H24末)	(H26末)																													
① 景観形成地区内の道路のうち、周囲の景観を活かした美装化を実施する面積	234㎡	357.3㎡	1,358.4㎡																													
② 景観形成地区内の建築物等のうち、歴史的建築物等の維持向上に資する修理・修景を実施する棟数	3棟	3棟	6棟																													
全体事業費	合計(A+B+C)	63.174百万円	A	63.174百万円	B	0百万円	C	0百万円	効果促進事業費の割合 C / (A+B+C)		0.0%																					
※事業費は平成22年度から平成26年度の5年間の事業費とした。（定量的指標は平成19年度から平成26年度までの8年間の数値）																																
事後評価																																
○事後評価の実施体制、実施時期																																
事後評価の実施体制					事後評価の実施時期																											
事業担当課で数値目標の達成状況や事業効果の発現状況を検証・分析し、その検証結果を踏まえて、第二期計画への反映を行った。 また、評価結果については、客観的な視点を反映させるために青梅市景観審議会にて報告し、意見を求めた。					平成27年度																											
					公表の方法																											
					市公式ホームページ																											
1. 交付対象事業の進捗状況																																
交付対象事業																																
A 基幹事業																																
番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接 間接	事業者	要素となる事業名 (事業箇所)	事業内容 (延長・面積等)	事業実施期間（年度）					全体事業費 (百万円)	備考																		
								H22	H23	H24	H25	H26																				
1-A-1	住宅	一般	青梅市	直/間	青梅市	青梅駅周辺景観形成地区街なみ環境整備事業	道路美装化、活動助成、 景観形成重要資源等の修理・修景						33.56																			
合計																																
B 関連社会資本整備事業																																
番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接 間接	事業者	種別	要素となる事業名	事業内容	市町村名	事業実施期間（年度）					全体事業費 (百万円)	備考																
										H22	H23	H24	H25	H26																		
合計																																
番号	一体的に実施することにより期待される効果										備考																					
C 効果促進事業																																
番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接 間接	事業者	種別	要素となる事業名	事業内容	市町村名	事業実施期間（年度）					全体事業費 (百万円)	備考																
										H22	H23	H24	H25	H26																		
合計																																
番号	一体的に実施することにより期待される効果										備考																					

2. 事業効果の発現状況、目標値の達成状況

I 定量的指標に関連する  
交付対象事業の効果の発現状況

- ・魅力ある街なみを後世に伝えるため、事業区域内における貴重な景観資源である景観形成重要資源等を保存・復元することができた。
- ・道路美装化と併せて、一般住宅を景観に配慮して修景することにより、市民が魅力ある景観を創出していく象徴となる例ができた。
- ・事業区域を横断する幹線である旧青梅街道から、裏通りに入っていく横丁等の美装化を行うことで、区域全体を回遊し、楽しめる空間づくりの基礎ができた。
- ・住宅修景や道路美装化をはじめとした本事業に、地元住民の意見を反映するため、地元住民で組織された景観まちづくり団体に助成を行い、その活動を支援できた。

II 定量的指標の達成状況

指標①（道路美装化面積）

最終目標値	1,358.4㎡
最終実績値	864.4㎡

目標値と実績値に差が出た要因

財政的な制約がある中で目標値に到達しなかったが、計画にもとづき着実に美装化を行ってきたところである。今後も事業を継続し、目標を達成できるよう努めていく。

指標②（修理・修景実施棟数）

最終目標値	6棟
最終実績値	5棟

目標値と実績値に差が出た要因

歴史的建築物の所有者の意向が大きく反映されるところであるが、住民の理解を得ながらほぼ目標値を達成できた。今後も計画に位置付けた事業を着実に実現していく。

III 定量的指標以外の交付対象事業の効果の発現状況  
(必要に応じて記述)

- ・地元住民で組織された景観まちづくり市民団体は事業区域内の景観形成の啓発等の活動を行っており、その団体に助成を行うことでその活動を継続して支援してきた。この団体の活動が、歴史的建築物の所有者からの市景観条例にもとづく景観形成重要資源の指定同意をいただき、指定件数が増加する要因の一つとなった。また、この団体は事業区域内での建築行為等について、市への情報提供や、施主に市へ景観条例にもとづく届出を行うよう周知するなど、良好な景観形成を目指す上で重要な役割を果たしている。

3. 特記事項（今後の方針等）

- ①第二期計画における定量的指標の設定は、第一期計画を踏まえ、次の点に留意した。
  - ・道路美装化については、実施面積は道路幅員に大きく作用されることから、美装化道路総延長の整備率をもって評価することとした。
  - ・整備計画の副次的効果として、青梅を訪れる観光客数（青梅駅前観光案内所利用者数、住江町観光施設入館者数）を定量的指標に加えることとした。
- ②青梅駅周辺景観形成地区景観形成計画に盛り込んだ、次の内容の整備を行うこととした。
  - ・七兵衛通りを美装化することで、丘陵の四季を楽しむ交流拠点をめぐる道としての魅力を高める。
  - ・森下児童遊園について、隣接する熊野神社と調和した公園となるように、陣屋の趣を伝える空間づくりを図る。
  - ・西分町3丁目児童遊園について、長淵丘陵への伸びやかな眺めも楽しめる公園として整備し、展望空間を創出する。
  - ・森下児童遊園と西分町3丁目児童遊園について、バリアフリー等の公園機能の拡充を図る。

(参考様式3) まちなみ環境整備

計画の名称	青梅駅周辺景観形成地区における良好な街なみの形成		
計画の期間	平成22年度 ~ 平成26年度 (5年間)	交付対象	青梅市

